

世界旅打ち気分

●第74回・豪州でのロングドライブ

須田鷹雄



写真1) なかなか雰囲気のある
ワンガラッタのパドック



写真2) とにかく景色が広いワンガラッタの
レースシーン



写真3) 小さい競馬場のテラングだが
レースは熱い

<https://www.instagram.com/sudatakaashoten/>

今回は2月に行ってきたばかりのオーストラリア・ビクトリア州の2場を紹介するとともに、オーストラリアで旅打ちする際に避けては通れない「ロングドライブ」の話もしてみようかと思う。

ひとつめは、ワンガラッタ競馬場。メルボルンから見ると北東にある競馬場で、メルボルン空港からだと240キロほど。グーグルマップだと2時間半と表示されるが、それは制限速度きつちりを維持してのものだ。グーグル先生は無茶な所要時間を言うてきがちなので、実際にはここからプラス30分、途中でしっかりと休憩を取ることを考えるとプラス1時間を見ておいたほうがいい。

この競馬場に限らず、メルボルンの空港を発して北や北東の競馬場に向かう際にはひとつの問題がある。「カンガルーの死体多すぎ問題」だ。空港を出て市内とは逆の北方向に走り、わりとすぐに右に曲がると引退馬養老施設として有名なリビングレジェンズがある。その道をずっと走っているとM31という高速に乗るとワンガラッタやベナラ、セイモアといった競馬場に行けるのだが、このルー

トは高速までの下道も高速に乗ってからも、とにかく車にはねられたカンガルーの死体に出くわす。中には青や赤のスプレーで×印が描かれたものがあるが、おそらく行政確認済(処理待ち)の目印だろう。

日本にいると信じられないだろうが、このルートで片道240キロを走ったらカンガルーの死体を5つくらい見ることになる。往復だと10体だ。正直テンションは下がるが、それより気をつけなくてはならないのが「自分の車がカンガルーとぶつかるリスクもある」ということだ。たぶん気をつけていても避けられないのだと思うが、それでも気をつけるしかない。

さて、そんなドライブの末にたどり着いたワンガラッタ競馬場は、意外にちゃんとした競馬場であつた。そもそもここは調教の拠点としても使用されており、芝コースだけでなく調教用オールウェザーコースも設置されている。

ファンエリアはローカルのブックメーカーが集まる屋根はあるが壁はないオープンな空間のほか、古くて小さいラウンジ(屋上に上がる)ができるそこから観戦で

きる)、そして新しいスタンドがある。

このスタンドは新しくかなりしつかりしたもので、開催日によってはメンバー専用なのだろうが筆者が訪れた日には普通に入ることができた(馬主章携帯だったからかもしれない)。1階にはパーティ会場のようにたくさんの丸テーブルが並び、コース側は全面ガラス張りになっている。夏の盛りでも冷房の効いた室内からゴール前の攻防を見ることが可能だ。このフロアのバーカウンターでは飲料だけでなく食事も提供しており、日替わりメニューでしっかりと食事を楽しむことができる。カントリー、それもシティからかなり離れた競馬場としては充実した施設である。

マウンテイングヤード(パドック)の雰囲気もよい。張り出した木が単調ではない景色を演出しているし、本馬場に出るところには馬蹄型のおしゃれなデザインのアーチが設置されている。スタンドの様子といいこのアーチといい、近年の改修の際に良いデザイナーが入ったことを想像させる。

実はこの競馬場には共有馬のデ

ビュー戦を見えるという目的で訪問し、その馬は直線挟まれてプービーという結果だった。片道3時間走ってプービーは相当な惨事だが、それでも行つてよかったと思わせるだけの素敵な競馬場だった。

もうひとつ紹介する競馬場はテラング競馬場。メルボルンから見ると西の方角にある競馬場だ。こちらの方面だとカンガルー遭遇率はそこまですらないと思うが、ドライブそのものの負荷が高い。距離220キロでグーグル表示の所要時間は2時間42分。距離が短いのに所要時間が長いということは、下道の比率が高いということである。

ただ、下道といつてもオーストラリアは制限速度100キロの下道がところどころあるので所要時間にはそこまで反映されていない。実際には最初に高速4割、そのあと下道6割で、下道を長時間走るといのがなかなかしんどい。

日本人の運転感覚だと一般道を100キロで走るといのはかなりきついが、頑張つて走っていても向こうでは煽られる。追い越し車線もなくはないが、無いところは無いので煽られっぱなしになることも

ある。

それでいていきなり制限速度が遅くなることも頻繁にある。工事や路面荒れによるものもあるし、途中にちよつとした街があるとその街の中だけは50キロ制限、スクールゾーンはもっと遅くなる。この「街中速度制限」は住む側の目線で考えると当然なのだが、運転する側としてはうつかり超過しやすい。そしてこの超過は取り締まりの対象になりがちなので気をつけた。筆者はユージーランドでの話だがパトカーに追いかかれたことがある。

こちらテラングは、行ってみると典型的なカントリの競馬場というか、最低限の施設で構成されていた。食事がとれる部屋が1階でその上がスタンド、部屋を出たところにブックメーカー。マウンテイングヤードの横にジョッキールームなどの事務棟。さらに屋根と段々があるだけの小さいスタンド。これで全てである。

行つたのは平日(金曜)なので客もろくにいないだろうと予想していたのだが、地元の企業がマッキー(テント)を借りてパーティ兼観戦会のようなことをやっており、予想

外に入場者はいた。地元には娯楽といえは競馬くらいしかないだろうから、貴重な場なのだろう。場内には競馬場創設150周年の記念展示物があつたが、それが2008年のもの。ということは、競馬場創設は1858年である。日米修好通商条約調印の年にこんな田舎街に競馬場を作っていたのだから、オーストラリアの競馬場もなかなかの歴史があると言える。

小さな競馬場を6レースまで楽しみ、間もなく大規模改修を迎えるムーニーバレー(コックスプレイト)が行われる競馬場のナイトーへ昼夜連闘しようと思いでメルボルンに戻つたのだが、ここで大きな失敗をしていた。テラングにはハーネス(繋駕競走)の競馬場もあり帰りに入口の写真は撮つたのだが、実はこちらもナイトーで開催だったのだ。こちらも貴重な未踏破場だったのに……。

ただ考えてみると、陽が落ちてから街灯もない一般道をヘッドライトだけを頼りに100キロで走つたらなんらかの事故に繋がっていたかもしれない。明るいうちにムーニーバレーに向かって正解だったと自分に言い聞かせている。